令和8年度

「運営に関する計画」

初期設定

大阪市立菫中学校

令和8年4月

大阪市立菫中学校　令和８年度　運営に関する計画自己評価　（総括　シート）

１　学校運営の中期目標

現状と課題

令和7年度の学校評価アンケートにおいて、「学校に行くのは楽しい」の項目について肯定的回答（あてはまる、どちらかといえばあてはまる）の割合は 84．3%、「いじめの事前防止や解決に向けしっかりと対応している」の割合は 91．1%、「先生は悩みや困りごとに親身に対応してくれる」は 92．7%、「生徒は正しい判断で、自主的に行動している」の割合は 95．3%であった。これらの事から、生徒の学校生活全般への満足度は高いといえる。

一方で長欠と不登校生徒の割合は、それぞれ 10．3%、3．2%であり、昨年度より悪化はしていないが、例年同様２年生の増加率が大きくなっており、課題は残っている。登校しやすい場としてのスクールサポートルームを開設し、活用している生徒も多い日は10人を超える。今後も、スクールサポートルームの活用とともに、SSWやSCなど外部との連携も密にして、生徒を多様な側面からサポートできる体制を整えていきたい。

令和7年度全国学力学習状況調査では、本校の平均正答率は、全国比で、国語117%、数学139%と非常に高い結果を出すことができた。一方「学習が好き、楽しい」の割合は、正答率の高さの割に高くないことは課題である。令和7年度チャレンジテストでは、大阪府平均に比して５教科で122%であり、前年度に引き続き120%を超えている。

12 月の学校評価アンケートでは「運動が好きである」の生徒の割合は 83.0%であった。また、「授業では話し合う活動を通じて考えを深め広げることができている」は 92.5%であり、それぞれ目標値を達成している。授業の充実しており、多くの生徒は前向きに取り組んでいる。

また 3 年生の大阪市英語力調査ではCEFR　A1相当以上は、79．2%であり、大阪市の目標値を上回っている。

授業改善に向けては、全ての教員が学習者用個人端末を活用したオンラインによる授業展開がさらに進み、ICTを活用した学力向上の取り組みは進んだ。また大阪市のモデル実施校として総合的読解力育成カリキュラムに取り組み、思考力・判断力・表現力の向上を図ってきた。今年度も、総合的読解力向上の取り組みを継続するとともに、教科指導力の向上をめざし、課題に応じて相互公開授業に取り組む。

一昨年度より通級指導教室が開設させることにより、多様な特性のある生徒が学校生活を過ごしやすくできるような支援体制が整備された。今年度は指導事例を蓄積するとともに、学年や学級担任との連携を密にとって　障がいのある生徒たちの支援の充実に取り組んでいくことが課題である。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか」に肯定的回答をする生徒の割合、95%以上にする。　（方向１　不登校への対応）

○年度末の校内調査において、学校で認知した「いじめ」について、解消した割合を毎年95%以上にする。　（方向1　◎いじめへの対応）

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を令和７年度（長欠 10．3%　不登校 3．3%）より減少させる。　（方向１　不登校への対応）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○全国学力・学習状況調査において、国語・数学の平均正答率が、全国平均比で110%を上回る。　（方向4　◎言語活動・理数教育の充実）

○大阪市英語力調査において、 CEFR　A1　レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を75%以上にする。　（方向４　◎英語教育の強化）

○年度目標アンケートにおいて「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の設問に対して、肯定的に回答する生徒の割合を８０％以上にする。
（方向５　◎体力・運動能力向上のための取組の推進）

【学びを支える教育環境の充実】

○年度目標アンケートにおいて「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友達と共有したり比べたりしていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80％以上にする。
（方向6　◎ICT を活用した教育の推進）

○教員の１か月あたりあたりの平均時間外勤務時間を月３０時間以下にする。
（方向７　◎働き方改革）

２　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

年度目標

○年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか」に肯定的回答をする生徒の割合を８５％以上にする。　（Ｒ７年度　８４．３％）

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
（Ｒ７年度　３．２％）

○年度末校内調査「先生はいじめについて、未然防止や解決に向けしっかり対応している」に肯定的回答をする生徒の割合を前年度より高める。　（Ｒ７年度　９１．１％）

○年度末の校内調査において、「先生は悩みや相談に親身になって応じてくれる」の項目について、肯定的回答率８０％以上を維持する。　（Ｒ７年度　９２．７％）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度目標

○中学生チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より百分率で２ポイント向上させる。
（Ｒ７年度　１年：国語+10.6　数学+9.3　２年：国語+9.6　数学+17.1）

○今年度の中学生チャレンジテストにおいて、全学年・全教科とも大阪府の平均点を、百分率で２ポイント以上上回る。　（Ｒ７年度　１年生+10　２年生+15　３年生+22）

○大阪市英語力調査 CEFR　A1 レベル相当以上の英語力を有する中学３年生の割合（４技能）を７５％以上にする。　（R7年度　７９．２％）

○年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の設問に対して、肯定的に回答する生徒の割合を８０％以上にする。
（Ｒ７年度　８３％）

○年度目標アンケートにおいて、「授業では、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり新たな考え方に気づいたりすることができている」という項目について肯定的回答率８５％以上を維持する。　（Ｒ７年度　９２．５％）

【学びを支える教育環境の充実】

年度目標

○年度目標アンケートにおいて「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友達と共有したり比べたりしていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80％以上にする。

○教員の１か月あたりあたりの平均時間外勤務時間を月３５時間以下にする。
（Ｒ７年度　３６時間４６分）

３ 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

年度目標に対する中韓進捗状況

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度目標に対する中間進捗状況

【学びを支える教育環境の充実】

年度目標に対する中間進捗状況

大阪市立菫中学校　令和７年度　運営に関する計画・自己評価　（目標別シート）

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか」に肯定的回答をする生徒の割合を８５％以上にする。　（Ｒ７年度　８４．３％） ○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。（Ｒ７年度　３．２％） ○年度末校内調査「先生はいじめについて、未然防止や解決に向けしっかり対応している」に肯定的回答をする生徒の割合を前年度より高める。（Ｒ７年度　９１．１％） ○年度末の校内調査において、「先生は悩みや相談に親身になって応じてくれる」の項目について、肯定的回答率８０％以上を維持する。　（Ｒ７年度　９２．７％）	管理
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	**達成状況**
取組内容①【基本的な方向１　◎安全・安心な教育環境の実現】 全生徒にSNSの取り扱いを中心に情報モラル教育を実施する。また教育相談を充実させ、いじめアンケートや体罰・暴言に関するアンケートを実施し、生徒の安全安心な教育環境を整備する。 **指標**　各学期に実施するいじめアンケート、体罰・暴言に関するアンケートに上がる件数を前年度より減少させるとともに、いじめの解消率を向上させる。	生指
取組内容②【基本的な方向１　◎安全・安心な教育環境の実現】 教育相談を実施し、カウンセリング・マインドをふまえ、相談しやすい環境整備を進める。登校しにくい生徒の校内の居場所としてのスクールサポートルームの運営体制を確立する。 **指標**　スクールサポートルームの利用件数と改善傾向にある不登校生の割合を向上させる。	生指
取組内容③【基本的な方向２　○豊かな心の育成】 規則を守る規範意識と自制心を育み、非認知能力を高める。特別の教科「道徳」の時間において、感性を豊かにし、自己有用感を養う。 **指標**　「道徳」の全履修項目を取り扱う。	教務

年度目標の達成に向けた取組の達成状況の結果と分析
次年度への改善点

大阪市立菫中学校　令和７年度　運営に関する計画・自己評価　（目標別シート）

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○中学生チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より百分率で２ポイント向上させる。　（Ｒ７年度　１年：国語+10.6　数学+9.3　２年：国語+9.6　数学+17.1） ○今年度の中学生チャレンジテストにおいて、全学年・全教科とも大阪府の平均点を、百分率で２ポイント以上上回る。 （Ｒ７年度　１年生+10　２年生+15　３年生+22） ○大阪市英語力調査 CEFR　A1 レベル相当以上の英語力を有する中学３年生の割合（４技能）を７５％以上にする。（R７年度　７９．２％） ○年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の設問に対して、肯定的に回答する生徒の割合を８０％以上にする。（Ｒ７年度　８３％） ○年度目標アンケートにおいて、「授業では、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり新たな考え方に気づいたりすることができている」という項目について肯定的回答率８５％以上を維持する。（Ｒ７年度　９２．５％）	管理

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向４　◎誰一人取り残さない学力の向上】 全教員が授業公開を行い、授業力の向上をめざす。 授業内で「教え合い」「学び合う」時間を設定し、生徒間で意見を活発に交流させ自分の考えを深め、広げることができるように支援する。 指標　　チャレンジテストにおける、平均点を対府比において前年度より向上させる。	教務
取組内容②【基本的な方向４　◎誰一人取り残さない学力の向上】 **【国語科】**主体的・対話的な授業を通じてコミュニケーション能力の向上と思考力・読解力を高める。「意見交流」「相互学習」の授業を展開し自らの考えを発表する機会を授業の４時間に１度以上設ける。端末機器を活用した授業を各学年、月５回以上取組む。 指標　授業アンケートの学習内容の習得についての項目で、肯定的回答率 80%以上とする。	国語
取組内容③【基本的な方向４　◎誰一人取り残さない学力の向上】 **【社会科】** 単元の終了時には小テストやデジタルドリルを実施するなど学習内容の定着を図る工夫をする。 端末機器を活用した授業を各学年月５回以上取組む。 指標　授業アンケートの学習内容の習得について、肯定的回答率 80%以上とする。	社会
取組内容④【基本的な方向４　◎誰一人取り残さない学力の向上】 **【数学科】** 習熟度別少人数授業やティームティーチングを展開し、数学に対するモチベーションを高める。主体的・対話的な授業を展開し、生徒が自分の意見を発表する機会を４時間に１回は確保する。端末機器を活用した学習を各学年３回以上取り組み、可能な限り使用する。教員用デジタル教科書を活用し、チャレンジテストの結果に反映させる。 指標　　授業アンケートの学習内容の習得について、肯定的回答率 80%以上とする。	数学
取組内容⑤【基本的な方向４　◎誰一人取り残さない学力の向上】 **【理科】** 生徒の授業に対する興味関心を高める。主体的・対話的な学習活動として、実験・観察、実物教材やモデル、視聴覚教材による授業を各単元に２回以上実施する。端末機器を活用した授業を各学年、月5回以上を目標とし、学年によっては、可能な限り、毎時間取り組む。 指標　授業アンケートの学習内容の習得についての、肯定的回答率を80%以上とする。	理科
取組内容⑥【基本的な方向４　◎誰一人取り残さない学力の向上】 **【音楽科】** 合唱をはじめ、自己表現力を維持する活動を実施。学習者用端末機器を活用した授業を各学年各学期に1回以上取り組む。 指標　　端末機器を積極的に活用し、授業アンケートの学習内容の習得についての項目で肯定的回答率を80%以上とする。	音楽
取組内容⑦【基本的な方向４　◎誰一人取り残さない学力の向上】 **【美術科】**　主体的に学ぶ授業を展開し、美術に対するモチベーション・アップを図る。端末機器を活用した授業を各学年年間1回以上取り組む。 指標　　授業アンケートの学習内容の習得についての項目で肯定的回答率を80%以上とする。単元ごとにアンケートをとり、「充実して制作ができた」という項目について肯定的回答率を70%以上にする。	美術
取組内容⑧【基本的な方向５　◎健やかな体の育成】 **【保健体育科】** 保健体育に対する苦手意識をなくすため、仲間と協力することの大切さ	保体

を理解させ、グループワークを積極的に取り入れてモチベーションにつなげる。生徒個々の技術の向上をめざすために個人での目標設定を行い、ICT を使用して自分の課題を見つけさせる。さらに、教え合いを含んだグループ活動による授業を年間10時間展開する。端末機器を活用した授業を各学年年間10回以上取り組む。 指標　授業アンケートの学習内容の習得について、肯定的回答率を80％以上とする。	
取組内容⑨【基本的な方向４　◎誰一人取り残さない学力の向上】 **【技術・家庭科】 実習や座学を通して**技術・家庭科に関する基礎的・基本的な技能や知識の定着をはかる。「調べ学習」「意見交流」の時間など、学習者用端末を使用した授業やグループで活動を行う授業を１，２年生は年間で8時間以上、3年生は3時間以上実施する。実生活につながる実習の授業を1，2年生は年間で5時間以上、3年生は3時間以上実施する。 指標　授業アンケートの学習内容の習得について、肯定的回答率を80％以上とする。	技家
取組内容⑩【基本的な方向４　◎誰一人取り残さない学力の向上】 **【英語科】**「読む・書く・聞く・話す」の4技能の指導とともに自分の考えを発表し、生徒間で話し合うなどのコミュニカティヴなアクティビティによる授業展開をはかる。習熟度別学習授業、C-NET を活用し、個々に応じた授業展開に取り組む。学習した文法事項によるアクティビティを単元ごとに1回以上実施する。学習者用デジタル教材と学習者用端末機器を活用するなどの授業を週1時間以上取り組む。 指標　　授業アンケートの学習内容の習得について、肯定的回答率を80％以上とする。	英語
取組内容⑪【基本的な方向４　◎誰一人取り残さない学力の向上】 **【特別支援教育】** ・大阪市キャリア教育支援センターの実習の実施（２回）と進路相談会の実施により、前向きな進路実現をはかる。 ・発達障がい基礎講座の開催、特別支援研修の実施、巡回アドバイザー等の外部専門家の指導等により、校内の特別支援教育の指導内容と体制を強化し、学校全体のユニバーサルデザインに基づく指導支援を進める。 指標 ・進路実現１００％をめざす ・年度末の特別支援学級及び通級指導教室での指導についての校内調査における肯定的回答率８０％を上回る。	特支
取組内容⑫【基本的な方向４　◎誰一人取り残さない学力の向上】 総合的読解力育成の取り組み、読解力の育成を図る。 指標　チャレンジテスト国語と数学の平均点を対府比で前年度より向上させる	管理

年度目標の達成に向けた取組の達成状況の結果と分析
次年度への改善点

大阪市立菫中学校　令和７年度　運営に関する計画・自己評価　（目標別シート）

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○年度目標アンケートにおいて「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友達と共有したり比べたりしていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 ○教員の１か月あたりあたりの平均時間外勤務時間を月３５時間以下にする。 （Ｒ７年度　３６時間４６分）	管理 ICT
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	**達成状況**
取組内容①【基本的な方向６　◎ＤＸ（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）の推進】 各教科の授業、学年の取り組み、行事等において、学習者用端末を用いた話し合いやプレゼンテーションの機会を積極的に設ける。	ICT
指標　年度末の校内調査において「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友達と共有したり比べたりしていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向６　◎ＤＸ（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）の推進】 5教科中心にデジタルドリルを各学期に3回以上活用するなど、デジタルドリルの効果的活用を進め、生徒の学習に対するモチベーションを高める。	ICT
指標　年度末の校内調査において「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向７　◎人材の確保育成としなやかな組織つくり】 学校閉庁日を長期休業期間に3日、冬季休業期間に2日程度設定し、年休取得率の向上をはかる。SKIP 機能を活用し、連絡会等会議の短縮、削減をはかり、勤務時間内の業務処理をめざす。部活動後の下校時間 18 時 15 分（試合前は 18 時 30 分、水曜日は 18 時 00 分）とし、時間外勤務時間を縮減する。ゆとりの日を積極的に設ける。	管理
指標 教員の１か月あたりあたりの平均時間外勤務時間を月３５時間以下にする。	

年度目標の達成に向けた取組の達成状況の結果と分析
次年度への改善点